

鳴門市まちなか未来ビジョン 素案



01	はじめに	02
02	まちなかの今	
	まちなかの特徴と課題	06
03	未来ビジョン	
	コンセプト・基本方針	07
	エリアビジョン	09
	活動イメージ	10
04	未来ビジョンの実現に向けて	
	各エリアの具体的な取組み	16
	まちのコアの整備に向けたロードマップ	19
	実現化に向けた体制	20
05	まちのコアとは	
	まちの現状	21
	これまでの検討経緯	24
	地元・デザイン会議での意見	25

港や街道を舞台に、人や物の往来が育んできたまち

港・街道により育まれてきたまち

近世から明治初期にかけての撫養は、かつて北前船の中継地として栄えた撫養の各港を中心に、人や物が行き交う港町として発展してきました。撫養街道（市道斎田撫養駅線）や黒崎方面への街道沿いに商業機能が集積し、塩業を中心とした経済発展とともに、港町ならではの文化が育まれてきました。さらに、明治初期に撫養川に文明橋が架橋され往来が活発化する中、現在の都市構造へとつながるまちの骨格が形成されていきました。



妙見山方向に伸びる撫養街道
（昭和初期撫養町中心部）



市内一円に広がった塩田
（昭和44年）

鉄道駅の整備による市街地の形成

大正5年（1916年）に撫養駅を起点とする鉄道が開通し、昭和3年（1928年）には旧鳴門駅まで延伸されました。鉄道の整備はまちの発展を大きく後押しし、撫養街道沿いの賑わいと連動しながら、旧鳴門駅周辺が「まちの中心」として機能してきました。

土地区画整理事業・駅移転に伴う市街地の拡大

昭和42年（1967年）主に塩田跡地を対象に開始した土地区画整理事業を背景に、市街地は段階的に拡大しました。昭和45年（1970年）には鳴門駅が現在地へ移転し、あわせて国道28号の道路形状の改良が行われるなど、商業区域は新駅の西側へ広がり、市街地も北側へと広がりました。その後、昭和60年（1985年）に撫養土地区画整理事業が完了し、概ね現在の都市構造となりました。



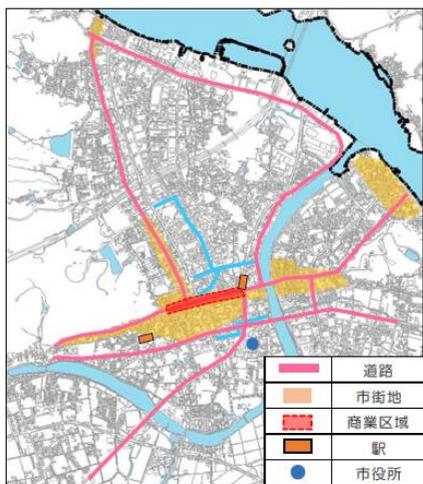
大道銀天街（昭和52年）

中心市街地における都市機能の空洞化

郊外化による中心市街地の低密度化

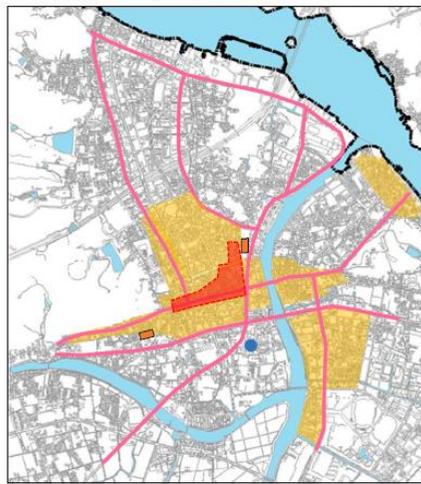
黒崎バイパス（市道南浜黒崎線）の開通を契機として、1980年代前半以降、自動車交通の利便性が向上し、モータリゼーションの進展と相まって、広い駐車場を確保できる郊外への商業立地が進行しました。市内においては「パワーシティ鳴門」「ハローズ」、市外では「フジグラン北島」「ゆめタウン徳島」といった商業施設の立地が進み、中心市街地の低密度化が加速しました。

鳴門駅移転前（1960年代）



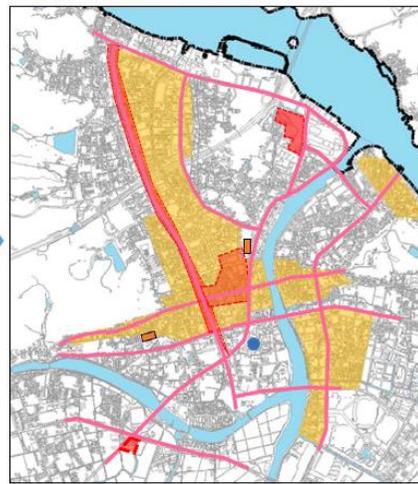
中心部に基幹的市街地

鳴門駅移転後（1980年代）



市街地が中心部から北側へ拡大

現在（2020年代）



市街地が拡散・低密度化

まちのコアのコテンツ不足

まちのコアである鳴門駅を中心としたまちなかの求心力は徐々に低下し、店舗数の減少や空き地・空き店舗の増加といった、いわゆるスポンジ化が進行しました。この結果、駅周辺には人を惹きつけるコンテンツが不足しており、日常的に立ち寄り、滞在する理由が乏しい場所となっています。中高生アンケート等でも「わざわざ寄りたいたいと思える理由がない」といった意見が多く見られ、若い世代をはじめ多様な世代が安心して過ごせる居場所や、訪れる目的となる機能の必要性が示されています。

中心市街地における都市機能の空洞化

都市構造の課題

鳴門駅は、国道がある東側を向いた構造となっており、駅西側の商業区域との接続性が十分とは言えない状況にあります。また、駅の位置がエリアの北端部にあることから、駅を起点とした人の流れがまち全体へと広がりにくい構造となっています。南北方向には交通量の多い幹線道路が存在する一方で、東西方向への人や車の流れは弱く、周辺部から駅周辺、駅周辺からまちなかへの回遊性の確保が課題となっています。これらのことから、駅周辺は交通結節点としての機能にとどまり、都市拠点としての機能が十分に発揮されていない状況にあります。

まちの顔が無い

鳴門市では、これまで約50年間、中心市街地のまちのつくりに変化が見られないまま現在に至っています。鳴門公園をはじめ、市内には多くの観光客が訪れる場所があるものの、中心市街地は通過型の空間となっており、立ち寄って過ごしたくなる場が少ない状況にあります。そのため、「ここに来れば鳴門らしさを感じられる」といった、まちの顔となる場所が明確に形成されておらず、人が集まり、滞在する目的地としての役割を果たしにくい状況が続いています。



まちなか未来ビジョンに込めた思い

かつて、鳴門のまちなかには、特別な用事がなくても人が自然と集い、顔を合わせ、言葉を交わす場所がありました。しかし、時代とともに、暮らし方や移動手段、買い物や交流の場は多様化し、人が集まる場は次第にまちの外へと移っていきました。その背景には、郊外化の進行のみならず、駅とまちなかの関係、動線のあり方、都市機能の配置といった、都市構造上の課題があります。

このままでよいのか

このまちの未来を、50年先を見据えたとき、先人たちが積み重ねてきたこのまちを、次の世代へどのような形で引き継ぐのか。こうした問いを出発点として、この未来ビジョンは描かれています。

変化は静かに始まり「いい風」へ

駅やまちなかを変えれば、まちが一気に変わるわけではありません。大切なのは、通過するだけの場所となっている空間に、人が立ち止まり、関わり、過ごすきっかけをつくること。

そこから生まれる小さな変化が、人の気持ちを動かし、まちに前向きな“いい風”を吹かせていきます。

「おすそ分け」のように広がる

暮らす人自身が暮らし楽しみ、若者をはじめとする市民の居場所を起点に活気が生まれ、魅力となり、「おすそ分け」のように広がり、関わる人、訪れる人が少しずつ増えていく。通過点となっているまちなかを、行ってみたい目的地へ。日常の延長にある場所を、過ごしたくなる場所へ。50年先を見据え、人の流れや賑わいをまちに取り戻していくことが、この未来ビジョンに込めた思いです。

様々な主体を巻き込み、動き出す鳴門の新たな未来

こうした未来を実現するためには、市民、事業者、行政など、鳴門に関わる熱意ある人々が、対話を重ね、様々な主体を巻き込み連携し、ともに動き、まちに“いい風”を吹かせていくことが必要です。その指針となるのが、このビジョンです。

まちなかの特徴と課題

ポテンシャルと構造的課題が併存するまちなかの現在

鳴門駅周辺および隣接エリアには、商店街に加え、県立高校や小中学校が立地しているほか、阿波踊りや撫養街道、撫養川、徳島ヴォルティスのホームスタジアムなど、歴史、自然、文化に関わる多様な地域資源が点在しています。一方で、駅周辺には都市構造上の課題があり、学生や来訪者が立ち寄りと思える場所が少なく、空き家や低未利用地も見られ、まちの中心としての機能を十分に果たせていません。地域が持つポテンシャルと、都市構造の転換や民間・地域の取組み等を掛け合わせながら、50年後へとつなぐ新たなまちづくりに取り組む必要があります。

通学利用増加と予想
(通学区域制廃止等)

学生の鳴門市への愛着は高い



コインパーキングの不足

阿波踊り

徳島ヴォルティスホームスタジアム



豊かな地域資源×都市コンテンツの創出

駅周辺での交流機能導入や社会実験等を通じた「くつろぐ」「学ぶ」「話せる」「楽しむ」が包括された空間の創出

駅周辺の東西軸の弱化



駅が商業の重心から外れている



駅がまちを向いていない



軌道による都市軸の分断



都市構造の見直し×コアの活性化

駅と商業エリアの関係、鉄道軌道と主要幹線等の都市構造の見直し、まちのコアの活性化、ウォークラブルなまちづくり

ローカル店舗が点在



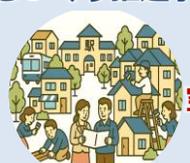
ロケーションのいい撫養川



地域人材発掘の取組み



リノベーションまちづくり推進事業



路線価の低下



空き家・低未利用地の増加



エリアポテンシャル最大化×公民連携

各エリアの特徴を活かしたまちづくり、公民連携手法によるエリア価値の向上、地域アイデンティティの醸成

コンセプト

コンセプト案 4選

① 鳴門に吹く「いい風」が、愛する「まち」を育てます

かつて賑わったまちは、50年の流れの中で構造的な課題が浮き彫りとなっています。

これからの鳴門駅を中心としたまちは、市民がまちなかで時間を過ごしたいと思い、新たな賑わいを生み出すエリアへと変えていくために、「いい風」をまちに吹かせることが必要です。人々が“つどい”、“たのしい”、“心地いい”を感じ、そのまちなかでの活動が、過去から未来へ、若い世代へと“つながり”、さらに愛着と活動が“育まれる”ことで50年後を見据えた持続可能なまちを創造します。

- 若い世代をはじめ、多様な人がつどい、関わる場を生み出します。
- 人や活動、想いを世代を超えてつなぎ、新たな活動を生み出します。
- 暮らしの楽しさや小さな挑戦をそだて、まちへの愛着を深めます。

② 若い風がめぐるまち われらのなると

アンケート等から、鳴門に通う学生は、鳴門を「好き」「大切にしたい」と感じている一方、自分たちが関われる場や、まちに出るきっかけが限られているという声が多く聞かれました。

市民歌にもある「われらのなると」、その共通した想いや愛着を、まちづくりの力として活かすため、若い世代の動きや声を起点に、コアからまちに新しい風を吹き込んでいきます。

若者がつどい、居場所や役割を持ち、主体的に関わりつながることで、その動きが広がり、まちが育っていく、そんなまちを作っていきます。

- 若い世代が主役となってつどい、関われる場をつくる
- 若者の声や動きをまちの力につなげる
- 次の世代を担う人と活動を育てる

コンセプト案 4選

③ むやるじょ になると

「撫養（むや）」という言葉の語源は「もやう」にあり、舟を「つなぐ」という意味を持っています。さらに、「撫養」は「ぶよう」とも読まれ、かわいがって養い、「そだてる」という意味も込められています。これからの鳴門駅周辺では、撫養（むや）のまちが育んできた歴史性や、その言葉に込められた意味を大切にしながら、さまざまな人がつどい、人々の想いや場所、歴史をつなぎ、これからのまちを担い、まちづくりに関わる若者やその活動をそだてていきます。そうした取組みを通じて、世代を超えて永続的に継承されるまちをつくります。

- 様々な人がつどい、新たな出会いを生み出します。
- 若者の想いや場所、歴史をつなぎ新たな活動を生み出します。
- 人や活動をそだて、まちに対する愛着や満足感を生み出します。

④ たのしい暮らしを、おすそ分け

住んでいる人が感じている「たのしい」「心地いい」という暮らしの実感こそが、まちの一番の魅力です。まずは、鳴門で暮らす人たち自身が、自分たちの暮らしを大切に、楽しみ、その想いをまちなかににじませていくことを、まちづくりの出発点とします。

日々の小さな楽しさや心地よさが人を寄せてつどい、共感を生み、人と人、活動と活動が少しずつ関わり合いながら、つながり広がっていくことで、結果として人の流れが生まれ、まちが育っていきます。

その楽しい暮らしをおすそ分けしながら、持続的な賑わいへとつながっていくまちを目指します。

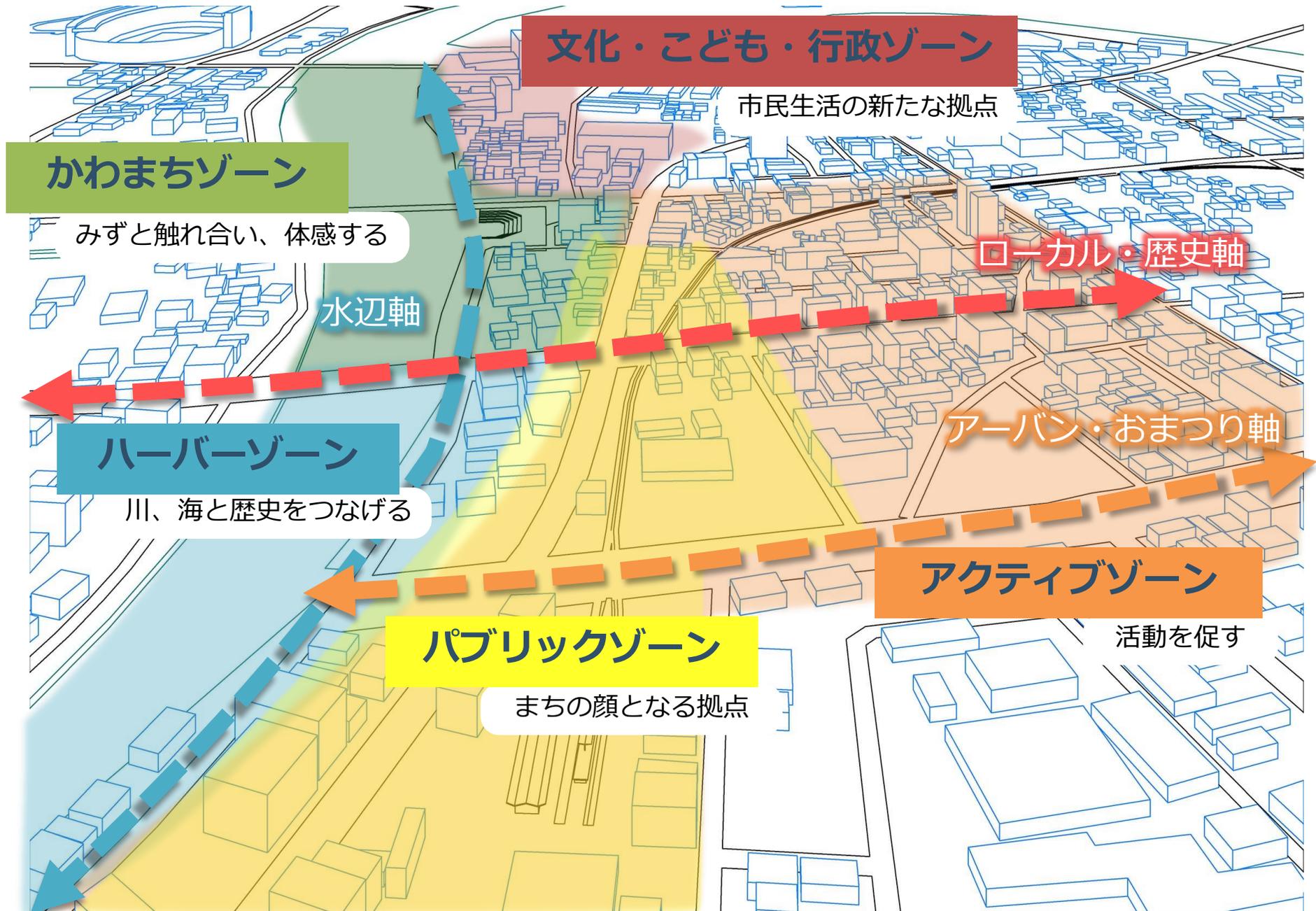
- 日常の中で人が自然に集える場をつくる
- 暮らしの中の想いや活動をまちにつなぐ
- 心地よい暮らしの実感をまちの魅力としてそだてる

基本方針

- 若者に支持される“わくわくするまちなか”を目指す
未来を担うのは彼ら。まちを使う彼らの声を大事に
ちょっと寄りたい、時間を過ごしたいと思えるまちへ変えていく
- 進化する都市構造から、“エリア価値の向上”を図る
まちのコアの移転から生み出す新たな鳴門の顔
東西都市軸の強化や新たな水辺の軸から街の価値を引き上げる
- 駅の持つポテンシャルとコンテンツの整備・誘導から
“人が溜まる” 空間をつくる
コアにまちの元気を触発するコンテンツを誘導する
終着駅から始まる、海へと繋がる、鳴門らしさのあるまちづくり
- 公と民が連携し、“まちを動かす” 人材を育てる
公共空間を拠点に、街の賑わいの構築へ
社会実験から導き出す、新たな人材による街の使い方
- 地域の魅力と街を繋ぎ、“鳴門らしさ”のある街を生み出していく
個性のあるゾーンから、個性のあるまちづくり
歴史・文化が地域資源として、鳴門の魅力を紡ぎだす

エリアビジョン

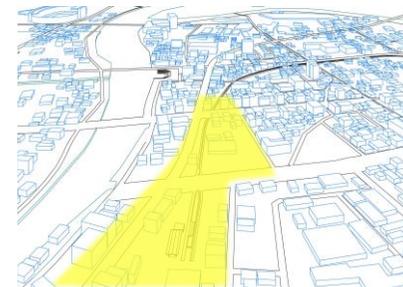
■ゾーニングと軸



活動イメージ

パブリックゾーン

生まれ変わった鳴門駅と市民の日常に溶け込んだ駅前広場が、市民に愛される居場所として多様な過ごし方を受け止める、まちの顔となるゾーン



まちのたまりばに集まる高校生

徳島市内から車で通う同級生と時間待ちをここで過ごす。ちょっと一緒に何かを食べる、ちょっと一緒に勉強をする。そう、ここはいつでも使えるまちのたまり場である。

駅前広場で放課後を過ごす中学生

部活がない日は駅前広場がみんなの居場所。「昨日のインスタライブ見た?」「今日の数学分かった?」、思い思いに過ごす鳴門っ子と、それを見守る大人たちが鳴門駅の新しい日常に。

鳴門駅に降り立った観光客

初めての徳島旅行は、鳴門駅からスタート。旅のコンセプトは「暮らすように旅するのんびり旅」。早速ローカルな美味しいお店を探そうと、観光案内所へ足を運ぶ。

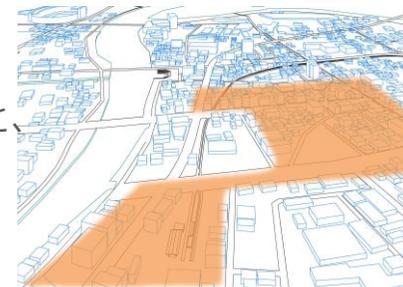
鳴門出張に来たサラリーマン

仕事の打合せが早く終わったので、コーヒー片手にパソコンを触れる場所を探して鳴門駅に到着。腰を落ち着けて集中して作業できる場所が駅にあるのはありがたい。

活動イメージ

アクティブゾーン

緑豊かな歩行空間であり、熱気あふれる阿波踊りの会場でもある谷通り（斎田鳴門駅線）と、撫養街道の歴史を継承した商店街、活気あるまちづくりの場となるゾーン

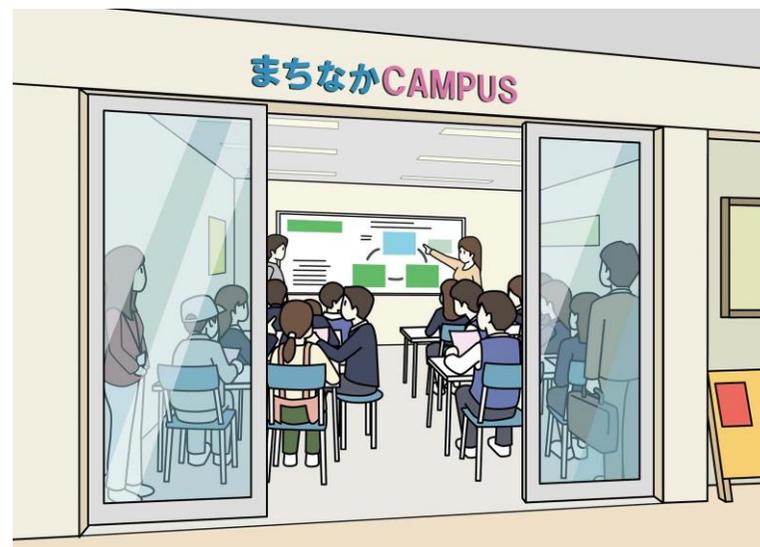


並木道を散歩する親子

歩道が広くて安心だし、緑も豊かなシンボルロードは、お気に入りの散歩道。子供のお気に入りの汽車公園や周辺の新しいショップなど、最近立ち寄ることが増えている。

阿波踊りに集まる人びと

8月9日から3日間、鳴門の中心はこの阿波踊り会場である。子供も大人も観光客もこのゾーンに集まり、まちは一気にお祭りムードに。「非日常」を思い思いに楽しんでいく。



商店街の未来を描くまちづくりの仕掛け人

商店街の店舗をリノベしたまちなかキャンパスで、鳴門の将来について話し合っている。ここで生まれたアイデアは、鳴門発の起業を支援するために官民連携で運営されているインキュベーション施設で、次のステージへと展開される。

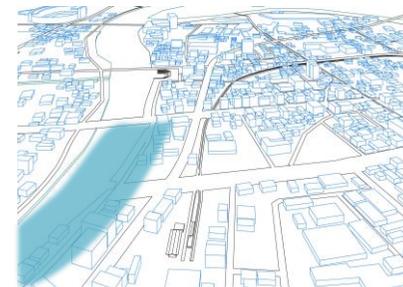
カレー屋に集まる商店街の店主たち

仕事が終わると自然とこのお店に集まる商店街の店主達。ここでも、鳴門の未来について、熱い議論が交わされている。ちなみにカレーは日本一を狙う本格派。

活動イメージ

ハーバーゾーン

四国の海運拠点として栄えた撫養港の歴史を今に伝えながら、鳴門駅という陸の終着点と、海への出発点である港が出会う場所として、個性あふれる賑わいを生み出すゾーン



旅と暮らしが交錯する、 まちのベースキャンプ立ち上げのキーマン

港沿いの空き倉庫を再生し、この場所をオープンさせた立役者。観光客が鳴門駅に降り立つと最初に立ち寄る拠点であり、地元住民の買い物や週末の憩いの場であり、地域の事業者の出店や発信の場でもある。

リノベされた倉庫で夢の雑貨屋を始めた若者

リノベーションされた撫養港の元倉庫で、ついに憧れの雑貨屋をオープン。港の歴史に想いを馳せながら、世界中で集めてきたビンテージの雑貨をところ狭しと置いている。

コワーキングスペースに訪れるデザイナー

自分の感性を大切にしたいから、働く場所にもこだわっている。穏やかな水辺を眺めながら作業をすると、新しいアイデアがよく浮かんでくる。

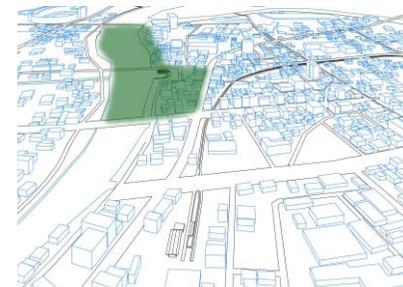
自転車旅好きの大学生

自転車のまま渡船に乗り、古くから海の玄関口として栄えた撫養港に到着。周りには渡船で通学する学生も。カフェで一息ついたら、鳴門のまちをゆったり巡る自転車旅スタート。

活動イメージ

かわまちゾーン

撫養川親水公園やメルヘンプロムナードといった、丁寧に整備された水辺空間を有し、市民の普段使いから始まる、憩いの場となるゾーン



マルシェで好きを商いにするUターン移住者

「趣味で人を幸せにできるって最高！」この場所で開かれるマルシェには毎回出店し、日頃作り溜めている編み物雑貨をまちのみんなにお披露目する。

グリメルヘンプロムナードを散歩する地元住民

ドイツに姉妹都市を持つ鳴門市は、グリム童話にちなんだ散歩道がある。壁に掘られた童話のモチーフが、犬の散歩やジョギング、孫との散歩など日々の暮らしにいろどりを与えてくれる。

船でスポーツパークに向かうサポーター

鳴門駅の近くから、船に乗って南に向かい、応援するプロチームの試合観戦へ。追い風に吹かれてスタジアムに近づいていくと、気分も上がり今日は絶対勝てる気がする。

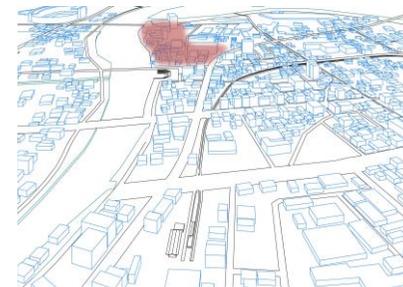
プロムナードを清掃する地元住民

土曜日の朝、近くに住む仲良し組でこの道を綺麗にしている。終わると近所へモーニングに出かけるまでが、毎週のルーティーン。

活動イメージ

文化・こども・行政ゾーン

新しくなった市役所、鳴門市文化会館、こども未来館を有し、文化芸術活動や多様な市民の交流の場として、豊かな生活を支えるゾーン



子育てルームで遊ぶ親子

はいはいの子どもを思いっきり遊ばせたい、親同士で子育ての情報交換をしたい、そんな時はこの場所に来る。地域のつながりを感じられて、大変な育児も少し楽になる。

地元のシニア層の男性

定年退職後、地元の合唱団に所属。今日はいつもの練習に加え、イベントに向けた施設スタッフとの打合せをする日。実は、イベント後の反省会という名の飲み会が一番楽しみ。

推し活遠征に来た県外の大学生二人組

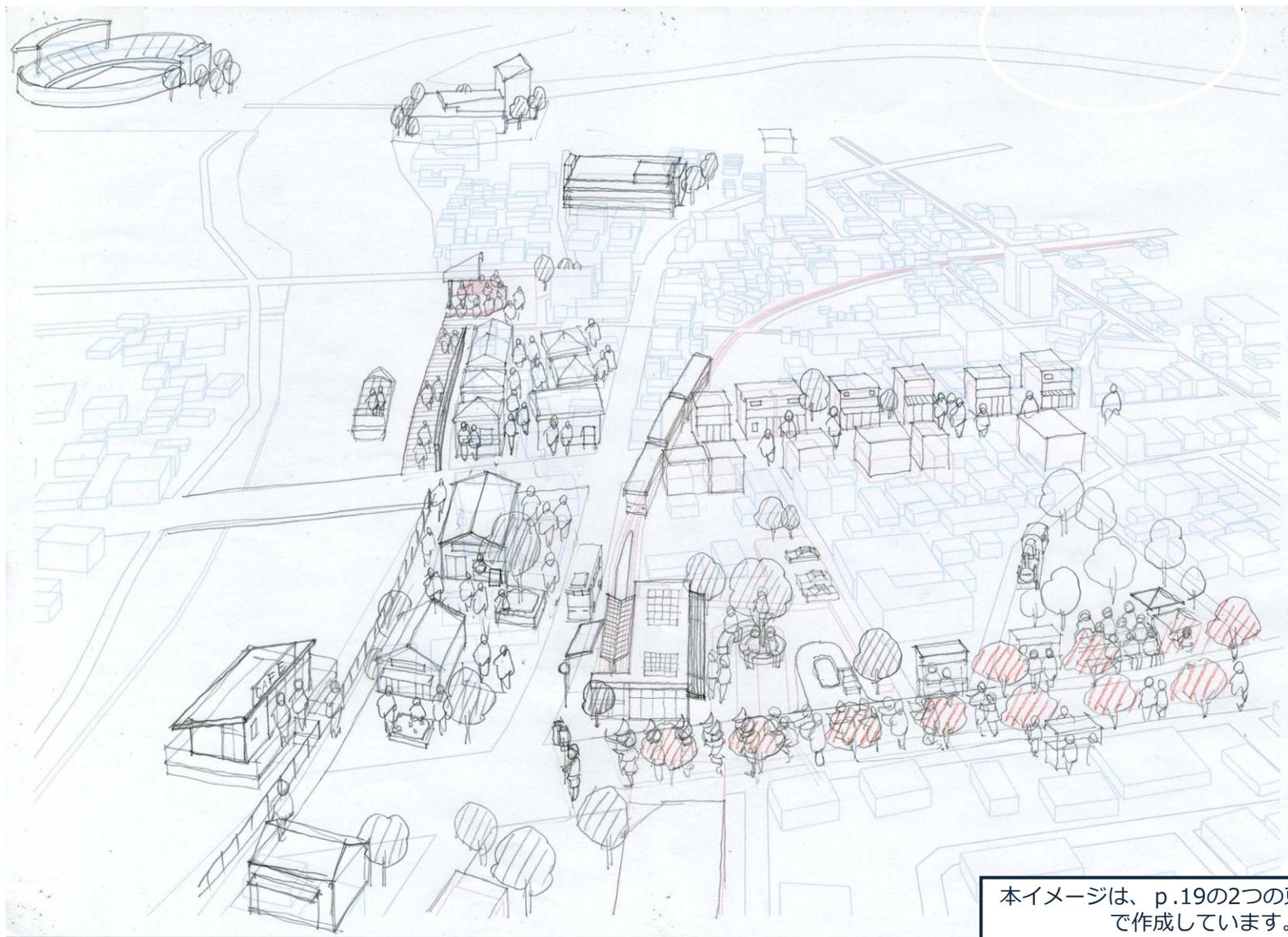
推しアーティストの全国ツアー@鳴門を見終え、感想を話している。都会よりチケット倍率は低めだし、ホールは1400人規模で推しも間近。次は鳴門小旅行も企画中。

放課後に勉強に立ち寄る中学生

家の外で勉強したいときは、いつも市役所かこども未来館に行く。周りに大人がいるから親に心配をかけないし、なにより家よりもぐっと集中できる。

活動イメージ

全体の様子

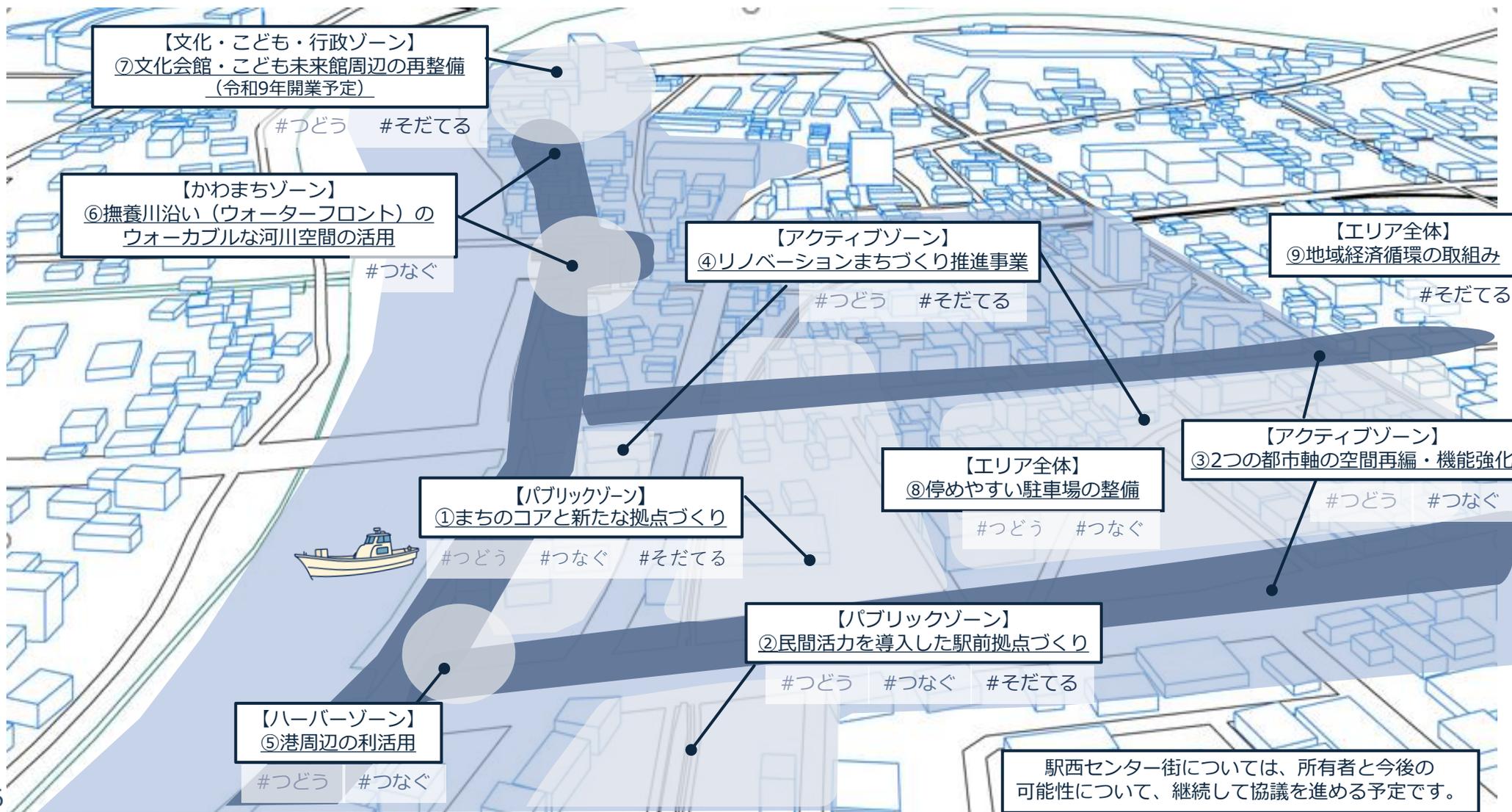


本イメージは、p.19の2つの東西軸の間案で作成しています。

各エリアの具体的な取組み

人々が“つどう”仕掛けを軸で“つなぎ”、若者とともまちを“そだてる”

都市構造の転換と新駅舎の整備を皮切りに、2つの東西軸や撫養川沿いの空間再編、公共施設の建て替えや改修などのエリア周辺の取組みを掛け合わせ、賑わいの創出やエリア価値創出の取組みを進めていきます。



各エリアの具体的な取組み

取組み一覧

No.	取組み	概要	短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (10年~)
①	まちのコアと新たな拠点づくり	駅や交通広場、交流機能の整備により、駅がつどい、つながぎ、そだてる活動の中心拠点となる	●	●	●
②	民間活力を導入した駅前拠点づくり	民間事業者等によるカフェやサービス施設等が集積する空間を創出し、日常的に人が立ち寄り、滞在・交流が生まれる駅前空間を形成する	●	●	●
③	2つの都市軸の空間再編・機能強化	車線再編による歩行空間の拡張や歩きやすい歩行者空間の創出に加え、まちなかキャンパスや屋台村の整備を行うとともに、社会実験やほこみち等を活用した道路・公園の有効活用により、日常的な滞在と交流が生まれる空間を形成する。	●	●	●
④	リノベーションまちづくり推進事業	空き家や空き地などの今ある資源を活用し、飲食・物販などのチャレンジショップで新たな賑わいを創出するとともに、地域で活動するプレイヤーをそだてる	●	●	●
⑤	港周辺の利活用	谷通りと美奈登橋を接続することにより、撫養港の港湾施設を生かした水上交通の活性化や空き家・倉庫等のリノベーションを促し、本エリアを「海の玄関口」として新たな賑わいを創出する	●	●	●
⑥	撫養川沿い（ウォーターフロント）のウォークアブルな河川空間の活用	利用されていない周辺の市施設や所有地を広場等として再整備するとともに、鳴門駅から文化会館周辺を繋ぐ撫養川沿いで河川空間のオープン化や遊歩道・浮棧橋の再整備を行い、イベント展開も可能なウォークアブルなウォーターフロント空間を創出する	●	●	●
⑦	文化会館・こども未来館周辺の再整備（令和9年開業予定）	文化・こども・学びの賑わい交流施設として再整備。年齢・立場を問わず、市民が思い思いの時間を過ごす中で、自然な交流や成長を促す	●	●	
⑧	停めやすい駐車場の整備	車で訪れる人が気軽にまちなかを利用できるよう、停めやすく分かりやすい駐車場の整備を進める フリンジパーキングの活用などにより、歩いて回りやすい環境をつくり、まちなかでの滞在や賑わいにつなげていく	●	●	●
⑨	地域経済循環の取組み	当エリアで出店する人に対する支援や、買い物時のポイント還元等の経済施策を通じて、店を出したくなるまちづくりや、まちなかの人々が楽しみながら地域内でお金が循環する仕組みづくりによりプレイヤーを増やし、そだてる	●	●	

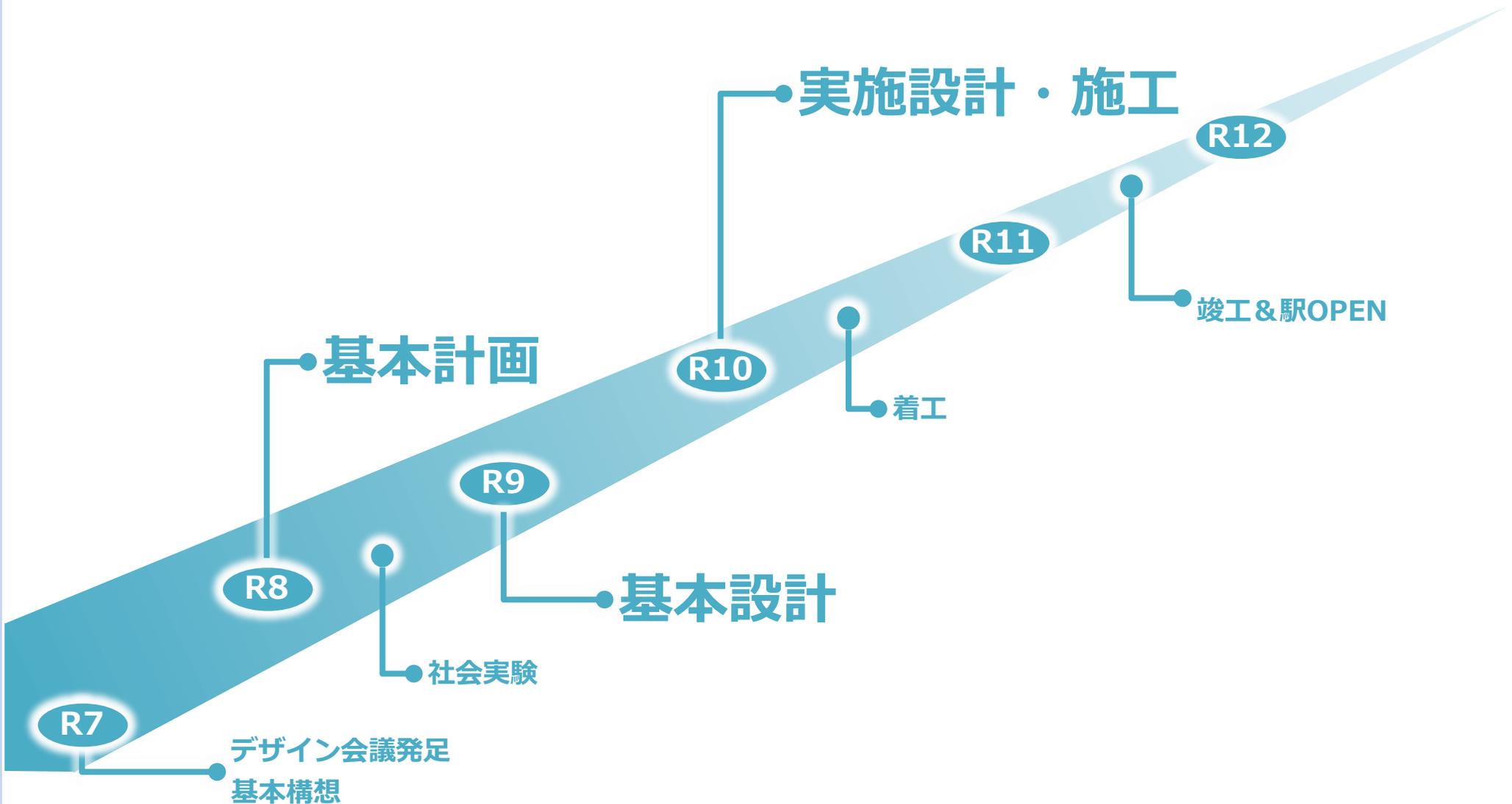
各エリアの具体的な取組み

まちのコアの移転が、未来ビジョンの実現に向けた第一歩に

04 未来ビジョンの実現に向けて

【2つの東西軸の間】	【2つの東西軸の南】
優れている点	
<ul style="list-style-type: none"> • 駅の各動線のハブとしての結束性が高い • 駅と旧撫養港とのつながりを生み出しやすい • 駅の東西に交通結節機能の設置が可能 • 新駅と駅跡地との距離が近く、連携した取り組みが行いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> • 市役所(行政・文化ゾーン)やスタジアムとの近接性が高まる • 駅の出入口と商店街を近接することが可能である(ただし直接的な接続は困難) • 撫養街道(南の東西軸)から踏切が除去される
留意すべき問題点	
<ul style="list-style-type: none"> • 駅の出入口と商店街(撫養街道)とが直接つながらない • 駅施設及び駅前広場の設置に際しクリアすべき課題がある • 駅北側からのアクセスがやや遠くなる • 駅移転に伴う支障物件発生し、合意形成が必要 • 支障物件に対する補償が発生し、コストは大きくなる 	<ul style="list-style-type: none"> • 駅施設及び駅前広場の設置における難易度が高い • 撫養駅との駅勢圏のバランスが悪くなる • 駅移転に伴う支障物件が多く、合意形成の難易度が高い • 支障物件が多く、また新駅設置の構造的難易度が高い

まちのコア整備に向けたロードマップ



表示は年度とする

実現化に向けた体制

様々な主体による駅周辺まちづくり

鳴門市まちづくりデザイン会議の民間団体を軸として、エリア周辺の様々な主体を巻き込みながら種々の方策・取組みを議論・検討し、ビジョンの実現を目指します

04 未来ビジョンの実現に向けて

まちを使う人たち

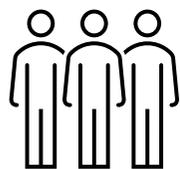


商店街事業者



マルシェ

市民・通行人・利用者



若者世代



鳴門市阿波踊り

まちづくりを担う人たち

(鳴門市まちづくりデザイン会議)



行政



まちづくり
会社



自治会



商工会議所

等

企画への参加
意見・要望・連携

助言

知識を提供する人たち



学識経験者

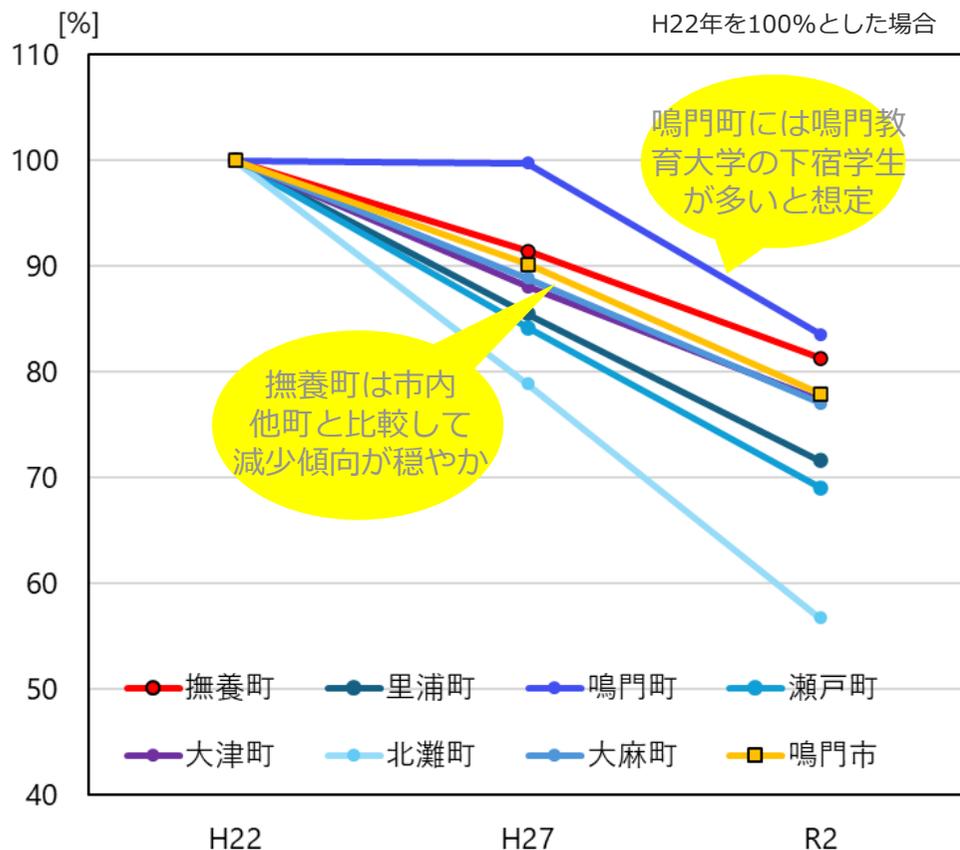


有識者

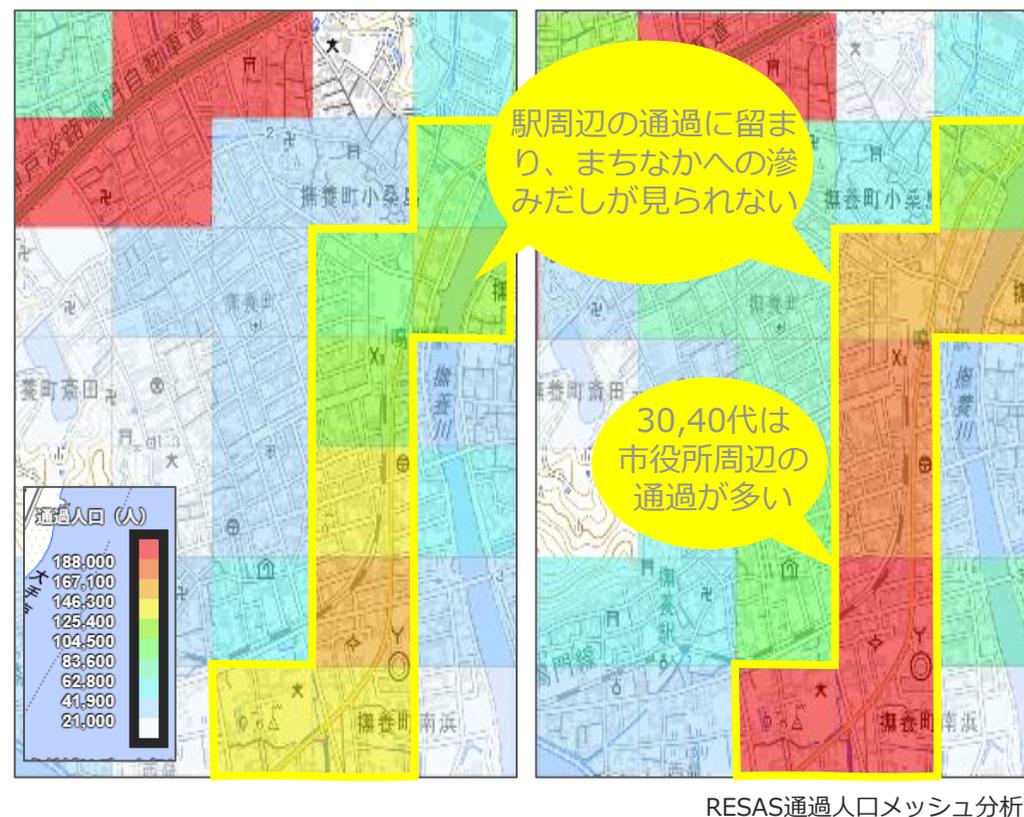
まちの現状 - 人口動態

撫養町は比較的人口減少が穏やかでポテンシャルがありますが、駅周辺からまちなかへの滲みだしが見られません

64歳以下の人口の推移



年齢別通過人口



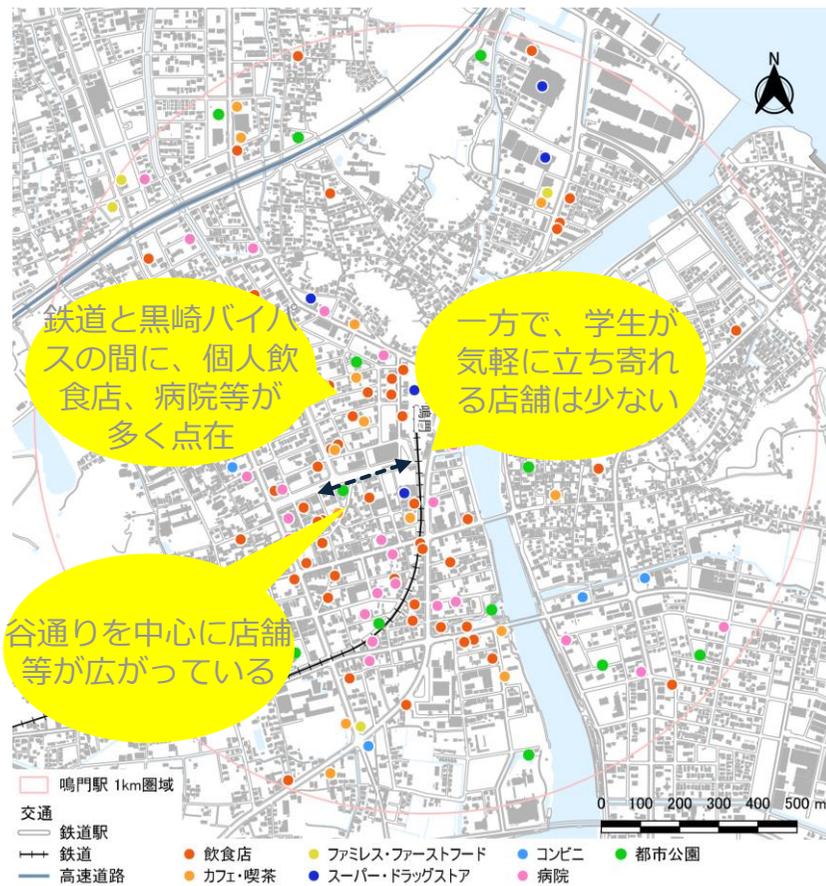
撫養町の64歳以下の人口割合は減少傾向であるものの、鳴門市内では鳴門町に次いで穏やか

20代以下は駅周辺に偏るが、子育て世代は公共機能が集積する南側まで移動

まちの現状 - 土地利用

既存のローカルな地元店舗や駅舎移転に併せた民間投資の誘致、リノベーションまちづくりの空き家活用事業等によるにぎわい形成や、安定した地域経済が期待できます

飲食・小売等



空き家・空き地・駐車場



都市機能の集積状況から、西側がまちの顔となっている。ローカルな地元店舗が点在

撫養街道沿いの空き家が一定連坦している箇所や、駐輪場等の低未利用地が存在

まちの現状 - 公共交通・道路

市内の公共交通のハブとなっているものの、都市構造上の結節点としては十分に機能していません

公共交通



鳴門駅と道路の関係



市内においては比較的公共交通に恵まれた環境で、公共交通のハブとなっている

現駅は商業区域の重心から外れ、都市構造上の“結節点”として十分に機能しておらず、まちの一体性や回遊性を阻害している

これまでの検討経緯

令和6年度から鳴門市まちづくりデザイン会議での議論を中心として、学生等へのアンケート調査や交通量調査を実施してきました

R6

- 鳴門市のまちづくりにおける課題・駅周辺の在り方について、有識者やJR四国との意見交換を開始
- 第1回鳴門市まちづくりデザイン会議にて、中心市街地の歴史と現状、課題について議論

R7

- アンケート調査：駅周辺の小学生、鳴門高校、鳴門渦潮高校、市役所夕暮れマルシェ
- 交通量調査：国道28号線、黒崎バイパス、谷通り、大道銀天街
- 第2回鳴門市まちづくりデザイン会議にて、都市構造の課題整理
- アンケート調査：市内中学校5校
- 第3回鳴門市まちづくりデザイン会議にて駅とまちの関係を整理
- まちづくり・住まいづくりに関する市町村長との意見交換
- 中学生によるまちづくりの研究・提案
- 第4回鳴門市まちづくりデザイン会議にて、2つの東西の都市軸・撫養川の活用方法を検討

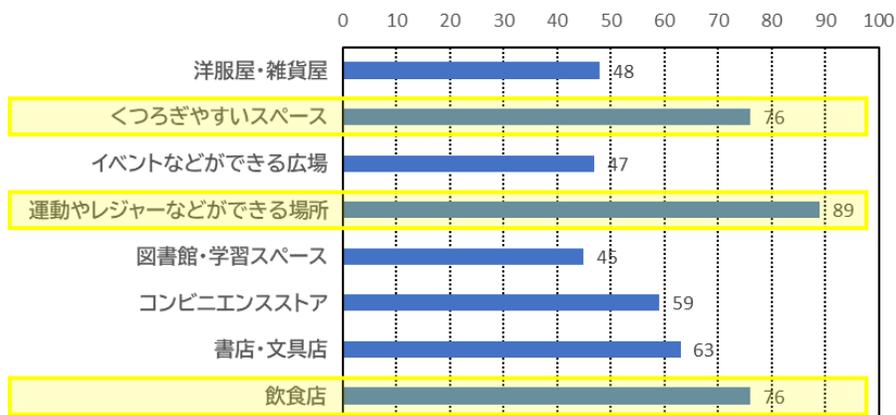
地元・デザイン会議での意見-学生アンケート調査結果

友人と気軽に集まれる居場所作りが、まちへの愛着を醸成

小学生・中学生・高校生といった若い世代は、まちなかでの自分たちの居場所を求めています。友人と過ごすことができる、魅力的な空間の創出が必要です

小学生

鳴門駅前に欲しい施設



中学生

○中学生はどこで遊ぶ？

- ・高校生に比べ、鳴門市内で遊ぶ子の割合が高い
- ・遊ぶ場所では、「友達の家」や「公園・広場」の回答も多い
- 低予算で**気軽に友達と滞在できる場**のニーズ

○どんな機能が欲しい？

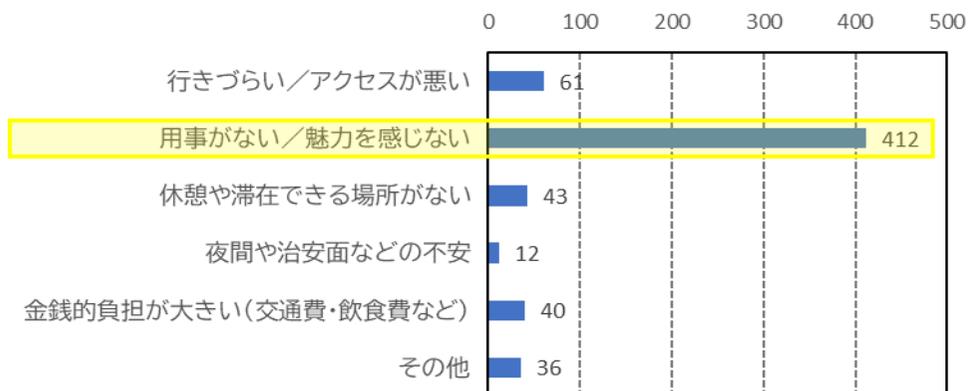
- ・おしゃれもいいが、安心感と安全面が大事。
- 親が安心できる場所だと中学生も寄りやすい？
- ・友達と気軽に集まれる、一緒に勉強などができるフリーなスペース

○鳴門市のことは好き？

- ・**9割以上の生徒が鳴門市のことが好き**だと回答
- 今後も鳴門市と関わりたいという意欲をもっている生徒が多い。家族、友達の存在や鳴門の自然の豊かさなど魅力が愛着につながっている。
- ・将来について、「まだ考えていない」生徒も一定数存在。
- これからの経験や環境次第で、鳴門市との関わり方が大きく変わる可能性がある層。**まちへの愛着を育てる取り組みを続けていくことが重要。**

高校生

鳴門駅を利用しない・利用頻度が少ない理由



鳴門駅周辺がどのような場所だと、より利用したいと思いますか？

	回答数	率
おしゃれで若者向けの雰囲気	493件	67%
安心して長時間滞在できる空間	447件	61%
勉強や部活の打合せなどができる静かなスペース	176件	24%
友達と気軽に集まれるカジュアルな雰囲気	536件	73%
夜間でも安全な場所	254件	35%
地域の特色が感じられる場所 (地元産品や観光要素など)	60件	8%
キッチンカーや屋台などのにぎやかさ	231件	31%
その他	11件	1%

地元・デザイン会議での意見-一般アンケート・社会実験

市民の居場所作りに向けて

アンケートや社会実験の結果を踏まえ、市民の居場所づくりの方針を検討していきます

夕暮れマルシェ

【いただいた意見の内容】

ご意見として、特に声が多かったものを紹介します。

- 鳴門駅周辺で定期的にマルシェやイベントを開催してほしい
⇒ **地域ににぎわいを生み出す定期開催のイベントなど**
- 気軽に寄れるおしゃれなカフェ、ゆっくり本が読める場所
⇒ **くつろぐことができる、滞在したくなる空間**
- 中高生が集まることのできる自習スペースやたまり場
⇒ **若者が安心して使える居場所**
- 雨の日でも子供が遊べるスペース、広い公園
⇒ **まちなかで子どもがちょっと遊べる空間**
- 送り迎えや駅前に訪れる際に使用できる駐車場
⇒ **駅及び駅周辺利用者の利便性向上**

鳴門駅周辺にあったら嬉しい施設・空間

にぎわい・楽しさ

- ・ゲームセンターやカラオケ
- ・映画館や水族館
- ・商業複合施設
- ・キッチンカーの集まるイベント
- ・いぬねこカフェ
- ・おしゃれなカフェ
- ・アスレチック
- ・放課後気軽に遊べる場所
- ・カルチャーセンター
- ・スポーツ広場
- ・写真映えスポット

便利・使いやすさ

- ・駐車場（〇時間無料）
- ・レンタサイクル
- ・DMVの導入
- ・自習スペース
- ・素泊まりできるホテル
- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・赤ちゃんスペース
- ・雨に強い駐輪場

休憩・やすらぎ

- ・噴水や水飲み場
- ・気軽に座れるベンチ
- ・キャッチボール出来る場所
- ・遊具のある公園
- ・イベントの出来る公園

その他

- ・街灯を増やして欲しい
- ・時間をつぶせる空間
- ・等身大フィギュアのようなシンボル
- ・ギャラリー

社会実験

「放課後に勉強できる場所が欲しい」

「友達と気軽に集まれる場所がない」

これは、今年度実施した中高生へのアンケートで寄せられた多くの声です。鳴門の未来を担う若者たちは、いま「自分たちの居る場所」を求めています。

そこで、この声をそのまま終わらせるのではなく、実際に空間を具現化する社会実験を行います。「ちょっと寄りたくなる居場所」をつくり、若者がどう集まり、どう過ごすのかを検証していきます。

